



馬の学校

# 馬の学校通信

2018. 12 vol.72

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX : 052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



## 人生を変えたファームステイ！



馬に乗るだけでなく、「馬との生活」を体験してみたいと思って参加した小須田牧場でのファームステイ。そこでの生活は、ブラシがけや馬小屋掃除といった馬の世話をするだけでなく、20頭以上の馬たちのエサの準備や様々な作業があり、朝から晩までの肉体労働でした。最初の1週間はひたすら筋肉痛、そしてその後も慣れない作業に右往左往、乗馬はちっとも上達しない…。春といえども清里は寒く大変な日々でしたが、それでも「嫌だなあ」とか「もう帰りたい」と思ったことは一度もありませんでした。馬は自分を映す鏡のような存在で、弱くてちっぽけな自分に気づいたとき、馬はだまって傍で見守ってくれました。そして小須田牧場のオーナーをはじめ、同じファームステイ仲間など「人」に恵まれたことも、とても大きなことだったと思います。ありのままの自分であることができ、馬を通して人に逢い、人を通して馬に逢う、そんな時間を過ごすことができる牧場は、私にとって大切な場所となり、その後、長期休みごとにファームステイに通うことになりました。

ファームステイは、私にとっては様々なチャレンジの場でもありました。ある日、初めてファームステイに来た高校生にレッスンをする事になりました。人に教えるということが大の苦手な私が、レッスン?! 緊張のあまり頭は真っ白、自信がなくて声は消え入りそうでした。何度やっても慣れることなく、思うようにできないことに悩んでいた時、オーナーから「自分をかっこよく見せる必要はない。知っていることを伝えたらいいだけ。」と言われました。「きちんと教えられる人にならなければ」と思い込んでいた私は、その言葉に「自分が感じている、馬に乗ることの楽しさを伝えればいいんだ」と思えるようになりました。なりたくない(なれない)職業No1が「先生」だった私が、教育の領域で仕事をしていることのきっかけの一つは、ファームステイ中にレッスンをしたことだったと思うのです。苦手なことでも好きなことを通してチャレンジすることで自分の世界が広がっていく、そんな体験の積み重ねが、建築士を目指していた(!)私の人生を変えました。



## おすすめの本

### 『どさんこうまのふゆ』 本田哲也作 芸文社

前号に引き続き、道産子(北海道和種)のお話です。こちらは写真ではなく、石こう地と油彩を用いて描かれた絵本です。激しい吹雪で馬が雪に埋もれてしまう…想像を超える厳しい冬を生き抜く馬たち。草だけでなく、海岸にあるものも食べるとは驚きでした。(答えは絵本を読んでくださいね!) 一度は絶版になった絵本だそう。馬の絵本は気がつけば絶版になっていることも多いので、「見つけたら買う」に限ります。



## 馬のおもちゃ

### 『木のクリスマスツリー』

今回はクリスマスグッズの紹介です。13年前の冬にドイツに行ったときに、どこかで買った木のクリスマスツリー。高さ20センチほどで、真中に木馬があり、ツリー部分はくるくると回転します。クリスマスカラーでなく、ナチュラルな雰囲気が気に入っています。ドイツのあちこちで開かれるクリスマスマーケットに行けば、必ずと言っていいほど馬グッズが見つかり、スーツケースは馬だらけになりました。



## 活動報告

### 馬とのふれあいプログラム in 愛知県森林公園

3名の参加で、のんびりじっくり馬とふれあいました。



### 馬とのふれあいプログラム in 六甲山牧場

かつてのウマキャンプの参加者が、お子さんを連れて来てくれて、嬉しい再会の場にもなりました。



### 馬への理解を深める講習会 in 六甲山牧場

「クワッドワークから安全な騎乗へ」というテーマで行いました。



### 馬とのふれあいプログラム in 愛知牧場

子どもから大人まで6名の参加、ポニーと成馬で行いました。



### 馬とのふれあいプログラム in 服部緑地乗馬センター

今年最後のプログラム、みんな馬と仲良しになりました。



## 子どもゆめ基金 助成活動

10月13日、岐阜県郡上市のカズホーストレーニングにて、子どもゆめ基金助成活動「馬と遊ぼう」を実施しました。愛知県長久手市にある児童養護施設「キンダーホルト」の子どもたちと、馬とのふれあいを楽しみました。3回目となる今年度は、ほとんどが経験者で、昨年妊娠している馬がいたことを覚えていて「仔馬、生まれた？」と真っ先に聞いてきたり、お手伝いも自分たちから進んでしてくれました。

年1回のプログラムでも、積み重ねていくことで、子どもたちの成長が感じられ、そして子どもたちも楽しみにしてくれているということはとても嬉しいことです。ぜひ来年も続けていきたいと思います。



### 第14回「治療的乗馬」研究集会

大会テーマ：「セラピー」と「スポーツ」のあいだ

~From Therapy to Sports, the fertile content in this field~

<主催> 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会

参加申し込みはこちらへ⇒ (<http://www.jtranet.jp/>)

<会期> 2019年2月23日(土)・24日(日)

<場所> 国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3-1

(小田急線「参宮橋」駅下車徒歩約7分)

<参加費>

2日間 一般7,000円/学生3,000円/開催団体会員5,000円

23,24日のうちどちらか1日

一般4,000円/学生2,000円/開催団体会員3,000円

<情報交換会参加費> 3,500円



## 編集後記

通信をリニューアルして生まれたエッセイ欄、続けられるかしらと心配していましたが、書き始めると私の人生には「ネタ」がいっぱいということに気づきました(笑) 履歴書に書ききれない職歴、様々なアクシデント、回り道もいっぱい…すべて「今」の私につながっています。まだまだ続きますので、のんびりお付き合いください。

さて、今年はプログラム盛りだくさんの1年でした。5つの乗馬施設のご協力のもと、プログラムを27回行い、のべ163名の方にご参加いただきました。来年はばかばこひろば(茨木市)でもコラボプログラムを企画しており、「つなぐ」ことを意識しつつ、丁寧に活動を重ねていきたいと思っています。

娘は、秋の運動会や山登りを経て、一回りも二回りも大きく成長したなあと感じます。自主保育の生活も残りわずか。寒さやインフルエンザに負けず、親子で存分に楽しみたいと思います。

(峯崎友香理)